1．継続は力なり

大阪商業大学　学長　谷岡一郎

「起業教育研究報告書」が、はや10周年を迎えられるとのこと、心よりお喜び申し上げます。「継続は力なり」と言いますが、ずっと続けてこられた関係者の皆様の努力を称えるとともに感謝の気持ちでいっぱいです。

「起業／ベンチャー」は将来への投資であり、チャレンジであり、そして社会の元気印の源でもあります。昨今の若者は（そもそも日本人は）安定志向が強く、リスクをとる計算をしませんし、方法も知らないことが多いとされます。しかし、こんな時代だからこそ、起業教育が本来の意義を持ち、この冊子のようなテキストが必要となるはずです。この種のテキストは、本屋などでほとんど見かけることはありません。「何かやってみたいのだけど、どうやっていいのかわからない」という考えを持つ若者は、潜在的にまだまだ多いはず。そんな人々にとって、そしてそれを指導する先生方にとって、この冊子は重宝されるものとなるはずです。そして（大げさでなく）、人生を変えるものとなる可能性すらあるでしょう。

大阪商業大学は、一流の起業戦士を世に送り続けてきました。また実社会をステージとして、生きた教育を進めてきました。まだまだやりたいことが多くありますが、少なくとも個人の潜在能力を引き出すことにかけては、日本をリードしているという自負を持っています。「何かやりたい」学生・生徒さんに、特にお勧めできる大学だと信じていますが、大阪商業大学以外にも頑張っている大学が多くあることは認めます。自分に合った大学が一番であることは間違いないので、まずは自分の目で確かめて選んでほしいものです。

最近よく考えることのひとつに、「昨今の経営者のうち、真に尊敬できるのは誰か」という問いがあります。かつては松下幸之助や出光佐三のような、大きなビジョンを持ち、かつ確固たる経営哲学をもった経営者が何人もおりました。そしてその人たちに共通していたのは、その企業に従事する人々とその家族らの生活を大切に考えていたという点でした。今はかつてほどのカリスマ性を備えた大巨人的な経営者に思い至りませんが、探せばたくさんいるでしょう。ブラック企業などが跋扈する現代社会にこそ、正しき良き哲学を持った経営者が必要とされるでしょう。そしてそれを育ててほしいものです。

冒頭で述べましたが、10年というのはひとつの区切りにすぎません。継続こそ本当の力です。これまで継続してきた内容を活かし、次の10年に向けてさらなる発展をお祈りしています。まずは10年の宴を皆さんと分かち合いたいと思います。

本当にありがとうございました。